



写真 (4点とも)：キム・ジュンマン

韓国を代表する舞踊家・金梅子。

韓国伝統舞踊の思想、魂、エネルギー、技法を深く受け止め、  
韓国舞踊がいかに現代において再生し続けることができるか、という根源的な問いを  
自身の創作活動のみならず、アートセンターの主催、舞踊誌の発刊といった  
多角的な方法で模索し続け、韓国舞踊の現代化の先鞭を担ってきた氏の活動に、  
作品紹介と対話の両面からアプローチする。

**1日目** 舞踊公演 2011年12月10日(土) 14:00開演 (13:30開場)

**2日目** シンポジウム 2011年12月11日(日) 14:00開演 (13:30開場)

会場：京都芸術劇場 春秋座 (京都造形芸術大学内)

# 金梅子 (キム・メジヤ) の仕事

越境する伝統——韓国舞踊の場所から

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター 主催  
舞踊公演 + シンポジウム



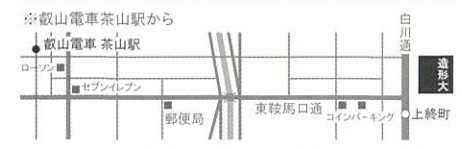
主催・企画・製作：京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター

助成：芸術文化振興基金

後援：駐大阪大韓民国総領事館 韓国文化院

協力：サルタヒコフォーラム

お問合せ：京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター 〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116 TEL 075-791-9207



●JR・近鉄京都駅、京阪三条駅、阪急河原町駅から  
京都市バス5番「岩倉」行き乗車、  
「上終町・京都造形芸大前」下車  
(京都駅から約50分、三条駅・河原町駅から約30分)

●京都市営地下鉄丸太町駅・北大路駅から  
京都市バス204循環に乗車、  
「上終町・京都造形芸大前」下車(約15分)

●京阪電車出町柳駅から  
叡山電車に乗り換え、茶山駅下車 徒歩約10分

※駐車場はございませんので、お車・バイクでの  
ご来場はお断りします。

# 金梅子 (キム・メジャ) の仕事

このたび、韓国の代表的舞踊家である金梅子さん、及びチャンムダンスカンパニーの公演を、歌舞伎の劇場である京都芸術劇場春秋座で催すことができるのは、とても感慨深いものがある。また、この公演で日本の古代楽器の復元演奏を積極的におこなっておられる土取利行さんをゲストにお迎えできることも出会いの不思議を感じさせられることである。

金梅子さんが、二十年以上前に熟を持って語られたことを思い出す。ご自分の舞踊は「現代韓国舞踊」であり、韓国伝統舞踊の技法と呼吸と魂を、今、ここで生きているからだ對話させ新たな舞踊を創りだしていく、そのような舞踊であると。そのために多くのフィールドワークをし、韓国の歴史のなかで埋もれてしまっていた舞や唄、そして身体思想を丁寧に掘り起こし、捉え直して来た。そのことは戦後の韓国の芸術活動のなかでもとても大切なことだったと。

私はその話を聴きながら、私たちの住むここでは、伝統とはどのようなものとしてあるだろうか、私自身が踊ることのなかにそれはどのように作用しているだろうか、——そんな思いを巡らさざるを得なかった。

今回の企画の全体タイトルは、渡邊守章さんの著作「越境する伝統」(二〇〇九年 ダイアモンド社) から引用させていただいた。伝統が時間も空間も越えていくというこの可能性を、公演・シンポジウムを通じて体験し、考えていけたらと思っている。

山田せつ子 (舞踊家/舞台芸術研究センター主任研究員)



Photo: Bang Sung Jin

金梅子 (キム・メジャ) 舞踊家・振付家

12歳からダンスを始め、韓国伝統舞踊のルーツをなす宮廷舞踊、仏教舞踊、民俗舞踊、シャーマニズム舞踊や伝統音楽などを修得する。伝統舞踊の踊り手としての実力とともに、60年代からの韓国舞踊革新運動の担い手として、韓国舞踊を基盤とした新しい舞踊の創造を始める。また当時舞踊学科の教授として在籍していた梨花女子大学を拠点に、舞踊の地位の向上や社会への浸透、教育の充実など多くの業績を残す。1976年、自身の主宰する創舞会 (チャンムフェ) を設立。85年には韓国で初めてのダンスのための小劇場「ポスト」を開場し、以来毎年ダンスフェスティバルを主催する。日本では88年の第1回東京国際演劇祭で招聘公演を行う。同年ソウルオリンピック閉会式で「ゆく船」の舞踊振付を担当。93年には「ポスト」を会場に舞踏フェスティバルを開催し、大野一雄を筆頭に日本の舞踊家を広く韓国に紹介する。99年に日本の記録映画「伝説の舞姫崔承喜—金梅子が追う民族の心」に主演。数々の優れた作品を国内外で発表し、2000年には日本から山本安英賞や日韓文化交流基金賞を贈られるなど、海外でも高い評価を受けている。社団法人韓国舞踊研究会設立、初代理事長。現中国・北京舞踊大学名誉教授。創舞会主宰、社団法人創舞芸術院理事長。主な創作作品: 「息」(1975)、「絹の道」(1977)、「舞・その神明」(1986)、「チュンボム I」(1987)、「チュンボム II」(1989)、「空の目」(1999)、「沈清」(2001)、「氷の川」(2002)、「春香」(2002)、ワールドカップ閉幕記念オペラ 監修

## 1日目 舞踊公演



### 1 サルブリ (16分)

一九三八年、新舞踊の父ハン・ソンジュンの発表会で初めて「サルブリ」という名で孫娘ハン・ヨンスクによって公演されたサルブリは、今日まで数多くの舞踊手たちが韓国舞踊の白眉として舞ってきた。金梅子サルブリは伝統的なサルブリ舞を基本に創作舞を加味し、私たちが直面している現代社会の喜怒哀楽と契いを解き放つ、願いを込めた舞である。「振付」構成 金梅子、チェ・ジョン 「衣装」シン・グン Chol、ミン・チョンホン 「ソロ」金梅子

### 2 チュンボム II (13分)

「チュンボム II」は元来ソロ作品だが、一九九九年初演の「天の目」のパート部分として群舞化を試みた。韓国の伝統的なボイス音楽とパツハ「マタイ受難曲」、カール・オルフ「カールミナ・プラーナ」といった西洋音楽を使用し、民俗舞踊の即興性をいかす舞を群舞形式で追及。この作品を通じて、東洋と西洋が調和する舞だけでなく、西洋の宗教音楽と韓国の巫俗音楽の感性的共感も感じられるだろう。

「振付」金梅子 「振付助手」キム・ソンミ、チェ・ジョン  
【台本】チェ・ヒワン 【音楽編纂】ヤン・ヨンジュン 【衣装】イ・ヨンヒ  
【出演】キム・ジョン、ユン・スミ、キム・ミンソン、キム・ソングイ、ベク・ジュヒ、イム・ジエ、コ・ギョンヘ、パン・ジョンナム、ユン・ジエ、キム・ヨジン、ワン・ヘグ

### 3 舞、その神明 (25分)

タルチュム (仮面舞) や農楽など屋外でおこなわれた多様な民俗舞踊を再構成した「舞、その神明」は、伝統楽器の多様な旋律と類型とともに繰り広げられる。また、ゴスベルの一種として知られる韓国の神明 (シンミョ) の起源とその現象を舞を通して表現する。舞踊手たちは舞うことで、神が支配する芸術的恍惚の境地へ、神明の経路を観客とともに分かち合う。

「振付」金梅子 「衣装」シン・グン Chol  
【演奏】ソ・フク、キム・スボ、ヨム・クイゴン、チョン・ミナ  
【出演】キム・ミンソン、チェ・ジョン、キム・クイゴン、ユン・スミ、キム・ミンソン、キム・ソングイ、ベク・ジュヒ、イム・ジエ、コ・ギョンヘ、パン・ジョンナム、ユン・ジエ、キム・ヨジン、ワン・ヘグ

### 4 光 (30分)

二〇一〇年、奈良の平城遷都一三〇〇年を記念し特別公演として企画された作品六二二年、百済の味摩之(みまじ)が奈良に渡来した際、仮面舞踊劇と伎楽も日本に伝えた。通か昔、数々の苦難に合いながらもアジア各地域をまわり、仮面舞踊と伎楽を創作した味摩之の思いを、世界的バーカッショニスト土取利行とともに届ける。

【構成・振付】金梅子 【衣装】イ・ヨンヒ、ミン・チョンホン  
【演奏】土取利行  
【出演】金梅子、キム・ソンミ、チェ・ジョン、キム・ミンソン



## ■アフタートーク ● 金梅子、チェ・ヒワン、山田せつ子、森山直人

【振付】金梅子 【振付助手】キム・ソンミ、チェ・ジョン  
【作品指導】キム・ジョン、ユン・スミ 【照明監督】シン・ヒョンソン  
【プロデューサー】山田せつ子 【コーディネーター】木村典子 【制作】キム・ソリョン

## 2日目 シンポジウム (同時通訳あり)

開会挨拶 山田せつ子 (14時開始)

### 【第一部】金梅子の仕事——韓国舞踊における伝統と現代 (14時10分—16時)

発表①「伝統との対話——韓国舞踊における創作のプロセス(仮)」●金梅子(舞踊家)  
——韓国伝統舞踊から現代韓国舞踊への時間・金梅子の仕事を通して——  
発表②「金梅子の芸術世界」●チェ・ヒワン(舞踊評論家/釜山大学教授)  
発表③「アジアのコンテンポラリーダンスから見た韓国創作舞踊の位相と成果」  
●イ・ジヒョン(舞踊評論家)

### 【第二部】越境すること——「伝統」とは何か (16時15分—18時)

発表④「越境する伝統」という問題形成 ●渡邊守章(舞台芸術研究センター所長・教授)  
ディスカッション コメンテーター ●竹田真理(舞踊評論家、八角聡仁(批評家/近畿大学教授)  
ディスカッション ●金梅子、チェ・ヒワン、イ・ジヒョン、山田せつ子  
モデレーター ●森山直人(批評家/舞台芸術学科教授)

※公演・シンポジウム共に出席者は入室の可能性がります。

1日目 舞踊公演 2011年12月10日(土) 14:00開演 (13:30開場)

2日目 シンポジウム 2011年12月11日(日) 14:00開演 (13:30開場)

会場: 京都芸術劇場 春秋座 (京都造形芸術大学内)

【チケット・参加お申込み】

1日目 舞踊公演: 2011年10月4日(火) 10:00 チケット発売

料金(全席指定): 一般 = 3,000円、シニア(60歳以上) = 2,700円  
学生 & ユース(25歳以下) = 1,500円、瓜生山学園生 = 1,000円(劇場窓口のみ)  
京都芸術劇場友の会 = 2,500円 ※学生、ユース、シニアは要身分証明書提示

【チケット取扱い】

□ 京都芸術劇場チケットセンター TEL: 075-791-8240 (平日 10:00-17:00)

□ 劇場オンラインチケットストア ※要事前登録(無料)  
パソコンから <http://www.k-pac.org/>  
携帯電話から <http://www.k-pac.org/theatre/m/m>  
※瓜生山学園生もチケット。窓口対応のみ。



京都芸術劇場モバイルサイト

2日目 シンポジウム: 無料・要事前申込み(全席自由)

電話・FAX・メールにて、【1.氏名 2.人数 3.連絡先(電話番号/メールアドレス)】をお知らせください。メールでのお申込みの際には、件名を【韓国舞踊シンポジウム】とご記入ください。 ※京都芸術劇場ホームページ(<http://www.k-pac.org/>)からのお申込みも可能です。

■京都芸術劇場チケットセンター

TEL: 075-791-8240 (平日 10:00-17:00)  
FAX: 075-791-9438 mail: k-pac@kuad.kyoto-art.ac.jp

※公演に先立ち、京都造形芸術大学生を対象にしたワークショップ(講師: 金梅子、キム・ソンミ、チェ・ジョン)を、12月7日(水)、8日(木) 18:30-20:30(両日とも) 学内で開催いたします。見学ご希望の方は以下の問合せ先までご連絡ください。

お問合せ: 京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター  
〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116 TEL 075-791-9207